

平成29年度 自己評価書(最終報告)

H30. 2.8. 高水高等学校・同附属中学校

1. 建学の精神:徳性の陶冶—教育による人格の錬成—

2. 校訓:○師弟親愛 ○堅実明朗 ○勤劳実践

3. 前年度の成果と課題

【成果】	<p>1. 教職員は、各科、学年、分掌、教科、それぞれの課題を共有しながら意欲的に改善に努めている。</p> <p>2. 生徒の学習に対するの興味や関心、意欲を高め、家庭学習の定着を図るための授業改善、とくにアクティブ・ラーニングの手法を用いるなど、創意と工夫が見られた。</p> <p>3. 研究授業を充実させる試みが一步前進し、組織的な研修制度をつくり出すための足固めができた。</p> <p>4. 教科会議等を通じて、教員間の達成目標に対する共通理解と具体的方策が実践されている。</p> <p>5. 各分掌長における自己評価については、各分掌の担当教員との共通理解のもと円滑な業務の遂行がなされた。</p> <p>6. 附属中を中心にICT環境の整備が整い、授業等で積極的に活用された。</p> <p>7. 防災訓練等の定期的な実施により、緊急時の適切な教職員の対応力を高めながら防災意識の向上が図られている。</p>
【課題】	<p>1. キャリア教育に対するの教職員間の共通理解と教員研修が不十分である。</p> <p>2. 系統的計画的な研修制度の導入を急がねばならない。</p> <p>3. アクティブ・ラーニング型授業を正しく定着させ、学校評価を実のあるものにしていくには、ルーブリック評価の導入を急がねばならない。</p> <p>4. 普通科1, 2年次での生徒の進路指導が不十分である。</p> <p>5. 第2校舎のLAN整備が不十分である。</p> <p>6. 校舎の一部の施設で修繕が次年度に持ち越された。</p> <p>7. 職員室および関係各所の整理整頓がまだ不十分である。</p> <p>8. ESD/パスポートを生徒全員に配布して、ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけたが、ボランティア活動における生徒間の意識格差は、依然著しく大きい。</p>

4. 平成29年度学校経営計画

- (1) 使命(ミッション):地域社会における自校の使命
創立以来の人間教育を受け継ぎ、社会に貢献できる人材を輩出する
- (2) 将来像(ビジョン):使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像
生徒の夢や目標を実現させることができ、地域住民から期待され信頼されている学校
- (3) 経営目標(目指す学校像)
 - ①生徒に教養を身に付けさせ、夢や目標を実現させる学校
 - ②生徒に社会人として必要なルールとマナーを身に付けさせる学校
 - ③地域社会から愛され信頼される学校
- (4) 目指す生徒像
 - ①思い続ける生徒
 - ②素直に学ぶ意欲のある生徒
 - ③思いやりのある生徒
- (5) 目指す教師像
 - ①熱意と意欲に満ちた先生
 - ②いつも生徒目線で考える先生
 - ③常に学び続ける先生
- (6) 本年度の重点目標
—人間性の保障・学力の保障・進路保障—
 - ①特別活動や部活動を通じた豊かな心や社会性を育む
 - ②一人ひとりの基礎・基本学力をワンランク向上させる
 - ③「1つ上の目標」に挑む進路指導の推進
- (7) チャレンジ目標
 - ①先に元気な挨拶をする
 - ②5分前行動を心掛ける
 - ③1%を誰かのために尽くす

5. 基本行動方針2017(教職員の目標と心得)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 『わかる・できる・使える』授業の提供を追求しよう
～授業相互参観・研究授業・授業アンケートの活用～ 2. 教職員から積極的に生徒へ明るい元気な挨拶・声掛けをしよう 3. 教職員らしい自覚をもった服装、言葉遣いを心掛けよう 4. 生徒指導において見て見ぬふりをしないで、全員で一致協力しよう
～指導したら最後まで見届ける。従わない場合には学年主任・生徒指導部へ連絡する。生徒は教員を見て育つ～
ときには生徒の壁になろう～ 5. 担任は副担任・学年主任・科長と協力してクラス運営の充実を図ろう
～学年・学級便りの発行で保護者への情報発信～ 6. 家庭訪問の実施を心掛けよう 7. 教員自ら「無断」で「遅刻、早退、欠勤」をしないようにしよう
～必要な場合は、速やかに科長・教頭へ連絡する～ 8. ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動や部活動の活性化を図ろう 9. 学校や生徒の情報共有をお互いに心掛けよう 10. 勇気を持ってチャレンジしよう |
|---|

6. 各学年の達成目標と目標達成の方策

学年	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
中1	進路保障 学障Ⅱ 保人障 保業（*障） 授業を人間として 基礎力 提出期* 限本 守語 *の 自運 学用 自能力 主（義+）	1. 基本的な生活習慣の確立 中1: けじめ・思いやり 規律正しく、人に優しく 中2: 自主性・積極性 自分の考え、意見を持つ。 中3: 協力・協調 他人を理解し、自己を知る	1. 挨拶、身だしなみ、掃除等の指導を行った。 2. 学力推移調査で総合偏差値が50を越えた。 3. 成績上位層にはアドバンス受験など個別対応を試みた。	4
中2		2. 1日2時間自学自習 3. 学力推移総合偏差値52以上 学年受験生の5割	1. 定期的な身だしなみチェックを行った。 2. 学力推移調査で偏差値の向上が見られた。 3. 成績上位層にはアドバンス受験など個別対応を試みた。	4
中3		1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を身につける。 2. 基礎学力の向上とともに得意科目をつくり、文理選択に備える。 3. 1日3時間自学自習 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生5割	1. 総合学習の時間を中心に楽学祭、修学旅行、合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1. 基本的な生活習慣は概ね良い。協力・協調もできている。 2. 7限の課外、朝プリント等毎日の学習に努めている。学力推移調査で向上が見られた。 3. 成績上位層にはアドバンス受験など個別対応を試みた。
六1	1. マネージメント能力及びチームワーク能力を身につける 2. 学部学科選択を意識し得意教科を2教科作る。 3. 1日4時間自学自習 センターレベルで平均点以上取れる。 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生4割	1. 総合学習の時間を中心に楽学祭、修学旅行、合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1. 修学旅行の事前学習や中六合同発表会の資料を通じ、協力した。 2. 大学案内を取り寄せ、大学比較を通じ、進路に対する意識を高めた。 3. 進研模試を意識させ、学習時間が少しずつ増えている。	4
六2	1. 第一志望大学合格を達成する。 2. 国公立二次や私大一般入試対策を徹底する。 3. 1日5時間自学自習 進研記述の総合偏差値50以上 学年受験生7割	1. 楽学祭や合同発表会のリーダーを務めさせ、会の進行や運営の経験を通じて能力向上の機会を提供する。 2. オープンスクールへの参加を義務付け、定期的な個別指導をおこなう。 3. ウィンタースクールによる受験体制への移行を意識化させる。	1. 幹事学年として、リーダーシップを発揮し、発表会の成功につなげた。 2. 夏期休業中のオープンスクール参加に関して、面談を行った。 3. 集団生活の意義をよく理解し、かつ個人の目標達成のために充実した学習時間を過ごした。	4
六3	達成目標 目標達成の方策 年度末 達成状況 達成度	1. 保護者説明会等を活用し、保護者の理解を得た上で、受験勉強を通じた能力向上を意識化させる。 2. 放課後補習や夏期講習会を実施する。 3. 学年のムードづくりを心がけ、進学講話会を通じ大きく意識変革する。	1. 特に大きなことなく無事センター試験が終えられ、第一志望に向けて1つハードルを乗り越えた。 2. 国公立二次試験に向けて具体的な戦略についての面談を行った。 3. 卒業式に全員が笑って迎えられるように最後までモチベーションを保てるよう細やかな声かけをする。	4
普1	1. 時間厳守 2. 欠席・遅刻をなくす	1. 教員が手本を示す 2. 個人面談を通して高校生活の目標を作らせる	学年いちだんとなって取り組んだ効果があり、比較的生徒が時間を守り行動できていた。3学期はインフルエンザなどの影響による欠席や、体調不良による遅刻も増えたが、1年を通してやった効果はあった。	3
普2	基礎学力診断 D3ランクをゼロにする	1. 受験前指導の徹底(具体的な数値目標を出す) 2. 成績表をもとに面談を毎回行う	基礎学力診断テストの取り組みは、少しずつ改善している。進研模試の受験者も増加している。	3
普3	進路の実現と学習環境の整備	1. 早期に複数回、面談を実施し、より具体的に進路目標を決定させる 2. 授業の開始をスムーズに行えるよう、時間に余裕を持った行動を心掛ける	1. 就職、進学希望者ともに、ほぼ100%に近い状態で進路を決めている。 2. 授業には余裕を持って準備できていた。朝の5分前登校については、若干名の生徒に対し最後まで指導を要した。遅刻者の減少につながり、評価できる取り組みであった。	4

7. 各教科の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
国語	1 主体的・能動的学習の実施。 2 基礎学力の向上。 3 目標偏差値の達成。	1 授業研究の実施。 2 漢字の読み書きの徹底。 3 基本基礎の定着、予復習の徹底。	経験を重ねた教員による授業研究が実施できたことは、大きな収穫。その他については、個々の教員の意識や行動を喚起できた。	4
地 社	1. 科・学年・コースに応じた指導を心掛ける。 2. 社会の「生きた授業」の構築	1. 個々の生徒の現状について担任と密に連絡を取り、指導を進めていく。 2. 習熟度を把握し、板書の工夫を図りつつ、質問しやすい授業展開を心掛ける。 3. 中学においてはALによる授業形態をさらに発展させる。	1. 定例教科会議を行いスタッフ間の意思の疎通をはかった。 2. 授業アンケートで生徒からの評価が高まった。 3. 2と同様生徒からの評価は高い。学力の向上につながっていることも、模試の成績等で推測できた。	4
数 学	1. わかる授業の追及 2. 新課程大学入試に向けた教材研究	1. 学習内容の精選 2. 傍用問題集の活用 3. 理解に応じた個別指導	中高連携の研究授業を年1回実施。教科内の意識を高めることができた。各教員が現状に合わせて授業を展開している。	4
理 科	1. 新課程大学入試へ向けた授業研究。 2. わかる授業の展開 3. 実験・観察の充実	1. 教員研修を充実させる。 2. 理科教員間の連携をはかる。 3. 実験ノートの活用と小テストでの理解の定着を図る。	生徒にあわせ、各教員がわかる授業の展開に力を入れ、新しい実験も工夫し提案した。また、研究授業を行い、教科の意識を高めることができた。	4
英 語	1. 自学を促し能動的に授業が取り組めるような授業工夫 2. 学力差を配慮したわかりやすい授業の展開 3. 大きな声が出る生徒を育てる。	1. 宿題を課し、家庭学習の習慣をつけさせ、授業を主体的に取り組め、楽しめる。 2. 個々の生徒の学力に見合う基本テキスト等によって補完してゆく。 3. 日々の指導の手を緩めない。	各科各クラスの実状に合わせて、教員が創意工夫しながら、英語授業に興味関心を持ってくれるように努めた。	4
保 健 体 育	1. 安全で円滑な授業展開(心と身体を育む授業) 2. 施設・設備の管理(定期的に点検)	1. ①準備運動をしっかりさせ、安全な授業を心がける。 ②集合時間の厳守に努める。 2. 授業後の点検を確実にを行う。	準備運動や補強運動をしっかり行わせ、大きな怪我もなく安全に留意して授業が行われた。施設・整備については補修しなければならないところが多くなり見受けられるため今後の課題である。	4
芸 術	基本的な生活習慣の確立を通して、芸術を愛好する 心情を育てる。	科の重点目標に留意し、共通理解を深める。	科の重点目標に留意し、生徒の実態に応じて取り組んだ。	4
家 庭	1. 体験的な学習活動を通して、基礎的な基本的な知識と技術を習得させる。 2. 健康な食生活を実現できる実践的な態度を養う。 3. 引き続き安全に配慮して活動する態度を養う。	1. 実験実習を多く取り入れる。 2. 食生活に係わる学習内容を充実させる。 3. 生徒の実態把握を充分行う。	1. クラスの状況に応じて工夫し計画通りに実施できた。 2. 教材や学習内容をコースで統一し、指導方法を工夫しながら授業を進めることができた。 3. 引き続き安全に配慮して活動する態度を養いたい。	4
情 報	1. スカイメニューを活かした授業の工夫 2. 情報モラルの指導とネットワーク関係の指導の充実	1. 指導教員自身が授業研究に精を出す。 2. 指導方法の改善	セキュリティ対策の問題はあるが、充実した内容を計画通りに行えた。	4

8. 各分掌等の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
総務部	1. 総務部マネジメントの向上 2. PTAの活性化の手助けを行う	1. 総務の仕事全般を把握し、円滑な業務のため適確なマネジメントをする。 2. 1年を通して、仕事の流れを時系列でまとめ業務を簡潔に処理する。 3. PTA活動がスムーズに進むよう積極的に活動する。	1. 昨年に引き続き各業務に担当責任者を指定することで、業務が予定通りの日程で遂行できた。 2. PTA理事会、総会等の諸活動の補助は概ね支障なくできた。	4
教務部	1. 新学習指導要領による基礎学力の向上に向けた指導体制を構築する。 2. 本校の入試の形を、発展させる。	1. 六カ年一貫教育のメリットを最大限に生かし、充実した授業を展開しつつ、難関大学への現役合格を目指す。 2. きめ細かい指導の中で、基礎学力の定着を目指す。 3. 生徒・保護者からの授業評価をもとに、教員研修を通して各教員の資質向上に努める。 4. 現状を踏まえ、将来を見据え、入学試験の形を整えていく。	達成目標2については、今年度付属中学校において専願入試を新たに導入した。また普通科入試も平成31年度入試へ向けて、新たな入試形態の骨格ができつつある。	3
生徒部	「問題を起こしそうな生徒の予測」や「事前の働きかけ」を行う「治療的予防」の生徒指導の充実	1. 立哨指導 2. 身だしなみ検査 3. 生活指導票の活用 4. いじめ防止基本方針の徹底	1と2については、予定通り実施。 3については、生徒の不公平感の解消が課題である。 4については、緊張感を持って取り組んでいる。形骸化することがないようにしたい。	3
進路指導部	1. 教員の共通理解と組織化を促す教員会議の充実 2. 保護者進路説明会の充実 3. 生徒進路研修会の充実 4. 本校独自のキャリア教育の進展 ※基本目標は昨年度の達成目標の継続と発展 5. 偏差値に頼らない大学選びの研究 6. 先生方に分掌分担の責任を自覚していただき、その責務をはたせるようにコミュニケーションをとることに留意する。 平成29年度重点目標として5項目の設定 ※指定校推薦制度への取り組み ※模試の流れの改善について ※教員のスキルアップ ※新テストの研究 ※つなぐ役割の徹底 以上5点を重点達成目標として取り組む。	1. ①高3進路指導連絡会②模試検討会(基準模試成績返却の度に開催する。個人成績の分析強化や問題研究) 2. 高3、高2、高1の保護者進路説明会を一学期中に実施する。(外部講師も依頼) 3. 進路研修会の回数と内容再点検 4. 総合学習やLHR・(道徳)を連動してキャリア教育の範疇に位置づけ、学年団で年間計画を立案する。中高6カ年教育については、環境教育と国際理解教育を柱とする発表を伴う課題研究を系統的組織的に実施していく。 5. 大学の教育力や就職力の研究を実施 ※の目標達成方策としては、11項目をあげて取り組んでいる。(11項目は年度初めの進路部指導方針で明示。)	1. については、連絡会や検討会で3年、2年、1年団との情報を共有して進んでいる。 2. は順調に実施した。 3. の研修会も生徒の進路希望に沿った研修会が行っている。 4. 科や学年と協同して展開中。 5. についても職員会議で復伝をしたり、資料の配付などで行っている。 ※の重点目標については、まだ改善点はあり満足はしていないが、概ね目標に向かって実行している。	4
保健部	学校における保健部の役割を再認識し、業務遂行を効率化する。生徒健康診断項目の変更にとまなう実施方法の工夫と実践	1. 生徒の健康状態の把握と個別指導の充実(健康調査の充実及び健康観察) 2. 健康診断後の事後指導の徹底 3. 学校環境の整備と改善 4. 安全教育的指導	1については担任や保護者の協力により充実したものとなった。 2についても提出状況が良く指導が徹底された。3についてはこれからの課題である。4については徹底された。	4
特別教育支援	1. 教育相談(カウンセリング)業務の継続・充実 2. 特別支援教育の充実	1. 教育相談においては、専任カウンセラーのカウンセリングを中心に行う。 2. 特別支援委員会の開催 3. 個別的教育支援計画の作成	1. 学年や担任からの依頼を受けて、週に1回のペースで実施できた。 2. 年に3回開催、教員間の共通理解を図ることができた。 3. 保護者の要望を受けて作成している。	4
広報室	受験生と入学生の増加	①広報活動の工夫。 ②HPの更新で、最新かつ正確な情報を伝えるよう心掛ける。	1. 付中入学生は微増しそうだが、受験者は減っており、来年度以降さらなる工夫と精力的な活動が不可欠である。 2. フェイスブック等で多くの情報をリアルタイムで発信できた。	3
事務室	1. 諸会計事務の迅速化 2. 誠意ある来校者への対応 3. 校内安全管理の徹底	1. 校納金の滞納者を減少させるために就学支援金や減免制度を周知徹底。 2. 電話の対応を丁寧に。来校者には笑顔で。 3. 事務職員と教員との共通理解。	1. 該当者には周知徹底して手続きして頂いている。 2. 丁寧に対応している。 3. 担任にも協力して頂いて連絡を取るようになっている。	4

9. 学校運営の達成目標と目標達成の方策

達成目標		目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度	
特別活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校行事の充実。 2. ボランティア活動への積極的な参加。 3. 部活動における休養日の設定。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動会や楽学祭などの学校行事を通して望ましい人間関係を形成し、より良い学校生活を築く。 2. ユネスコスクールとしての自覚を持って、生徒にボランティア活動の積極的な参加を推進する。 3. 各クラブ顧問と密に連絡を図り実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概ね達成できた 2. 個人差が大きかった。 3. 教頭と連携しながらほぼ達成できた。 	4	
学校運営	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的な学校情報の提供を行う。 2. 予算の効率的、計画的な執行を図り、全教職員の連携、協働をもとに校内ICT環境の整備を徐々に推進する。 3. 防災教育・防災管理の活動を推進し、生徒及び教職員の危機管理意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページや広報活動を通じて、本校の魅力を地域や小中学校、保護者に情報発信する。 2. 3カ年計画を立て、ICT環境を整備する。 3. 各学期、防災訓練等の実施により、緊急時の組織的な対応力を高めながら、個人の防災意識の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページをリニューアルし情報発信している。 2. 第2校舎のICT化を次年度に計画している。 3. 達成できた。 	3	
業務改善	学校の組織等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員一人ひとりの資質能力の向上を図る。 2. 教職員全体の組織の強化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員研修を年4回、外部講師を招いて計画的に実施する。 2. 科会、校務分掌会議、教科会議をより充実させる。 	1. 2ともにほぼ達成できた。	4
	日常的な業務	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相互に信頼できる円滑な職場環境を醸成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理職員からの積極的なコミュニケーションを図る。 2. 校長との教職員面談を年2回実施する。 	1. 2ともにほぼ達成できた。	4
	勤務状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員の心身の健康を推進する。 2. 教職員の事故防止に努める 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全衛生委員会を活用して、各職員室と事務室との連携を定期的に行う。 2. 管理職員から積極的な声掛けや働きかけにより、教職員のメンタルヘルスケアに努める。 	1. 2ともにほぼ達成できた。	4

10. 本年度の取り組みの成果と課題

【成果】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員は今年度も、各科・学年・分掌・教科、それぞれの課題を共有しながら、意欲的に改善に取り組んでいる。 2. 中高一貫の六年制普通科と中学部との連携がより強化され、各学年の目標がほぼ達成できた。 3. 普通科においてはチャレンジ目標である5分前行動が徹底できた。 4. 各教科の達成目標が定期教科会議を通して共有され、その達成に向けて意欲的に取り組んでいる。 5. 各分掌においても達成目標実現のために、分掌長がリーダーシップを発揮して教員が協働しながらよく取り組んだ。 6. 今年度初めての取り組みであった全教員による教員研修「主体的・対話的で深い学び」が実施できた。 7. 部活動における休養日の設定を各クラブの顧問が協力して実施できた。 8. 進路保障、特に3年生の進路実現に向けて教職員が協働して取り組めた。 9. 付属中の広報活動に現場教員が積極的に取り組んだことによって、入学者を増やすことができた。
【課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育の教員研修等は予定通り実施できたが、教員の学校アンケートの結果からも教職員間の共通理解とその取り組みが不十分であった。 2. 系統的な教員研修制度の確立がまだ不十分であった。 3. 普通科における基礎学力の定着に取り組んできたが、まだ不十分であった。 4. 第2校舎のLAN整備が次年度に持ち越された。 5. 学習内容・方法・評価の一体化に大きな課題を残した。平成30年度生が新入試初年度生となることから、アクティブラーニングに対応した評価（ルーブリック評価等）や調査書作成時に必要となるポートフォリオ評価等について、早急な対策準備が必要である。 6. 整備したICT機器を活用し、授業のレベルアップを図ってゆくためにはそれを運用するアプリ・ソフトプログラムの整備が不可欠であり、この分野について研究し導入に向けた取り組みが求められている。 7. 教務・学校運営上に必要なソフトプログラムを更新し、ネット社会で通用する学校システムを構築する必要がある。 8. 入試改革を進める上で、現場の教員の共通理解と協力が不可欠である。来年度入試の改革に当たって、教職員間のより一層のコミュニケーションが求められる。